

2026年度（第1次） 同志社女子大学大学院 生活科学研究科
食物栄養科学専攻 修士課程 実践栄養管理学コース〔社会人〕

入学試験問題

（2025年9月11日実施）

小論文

受験番号



（この用紙に解答すること）

下記の患者の栄養状態を踏まえた栄養管理計画を立案し、特に注意すべき検査項目とその理由について記述しなさい。

【基本情報】

年齢・性別：82歳 女性

生活歴：一人暮らし。近所付き合いも少なく、自宅での生活が続いていた。

既往歴：高血圧、変形性膝関節症、軽度の認知症。最近、転倒による左大腿骨頸部骨折のため入院。

【現病歴】

入院前の3週間、食欲が著しく低下し、おかゆや牛乳を少量しか摂取していなかった。

遠方に住む家族によると、入院前2週間で体重が急激に減少し、「食事はほとんど食べず、水分もあまり摂らない状態」が続いていたとのこと。

入院時身長 150 cm、体重 35.5kg、BMI 15.8kg/m²。握力は著しく低下。血液検査ではアルブミン 2.5g/dL、総コレステロール 110mg/dL、ヘモグロビン 9.0g/dL。

2026年度（第2次） 同志社女子大学大学院 生活科学研究科
食物栄養科学専攻 修士課程 実践栄養管理学コース〔社会人〕

入学試験問題

（2026年2月13日実施）

小論文

受験番号



（この用紙に解答すること）

医療現場での多職種連携において、栄養管理は診療ガイドラインに基づいた科学的根拠のある介入が求められる。これは、該当する Clinical Question (CQ) で引用された論文のエビデンスレベルや推奨度を尊重しつつ、最終的な介入決定は患者との対話や個々の状況に応じた管理栄養士の裁量に委ねられることを意味する。

このように「様々な論文に裏打ちされたエビデンス」と「患者毎に個別化された実践」の関係性を踏まえた上で、カルテ記載を行う際に「① 医師などの他の医療職種が求めている情報（例：各疾患の病態に応じたステージ分類など）」と「② 管理栄養士間で共有しながら栄養管理を行うために必要な情報（GLIM 基準など）」を、どのように分けて記載すべきかを、具体例を用いて論じよ。